

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

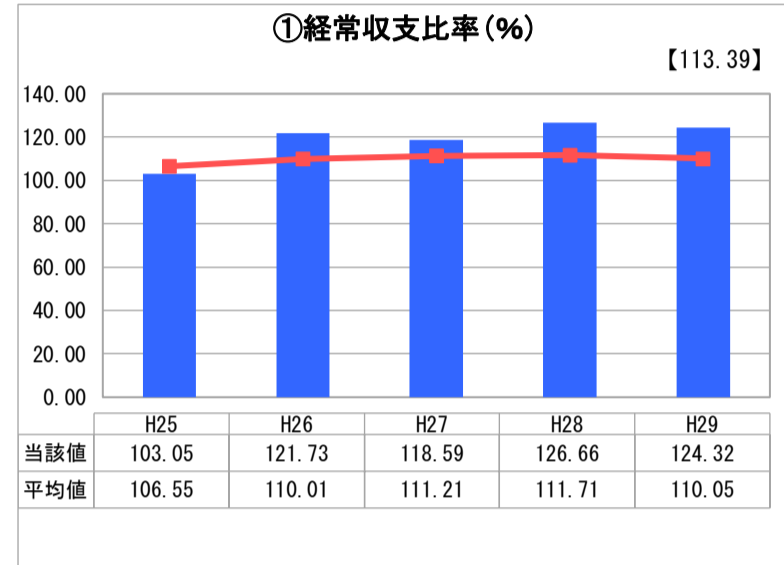
福井県 小浜市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	76.63	82.90	2,397	

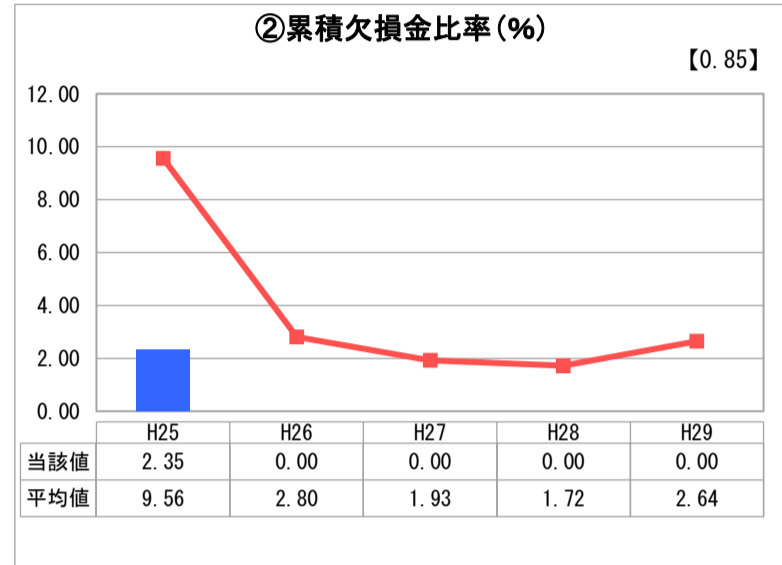
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
29,743	233.11	127.59
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
24,481	21.67	1,129.72

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

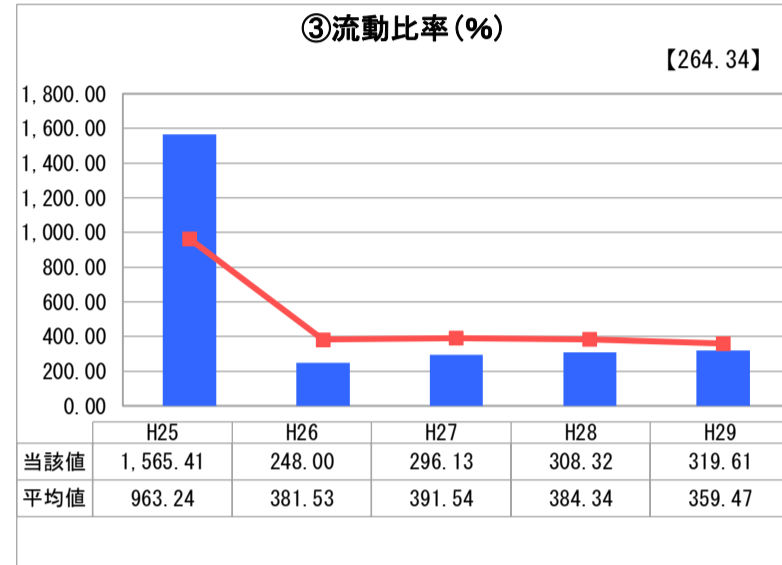
## 1. 経営の健全性・効率性



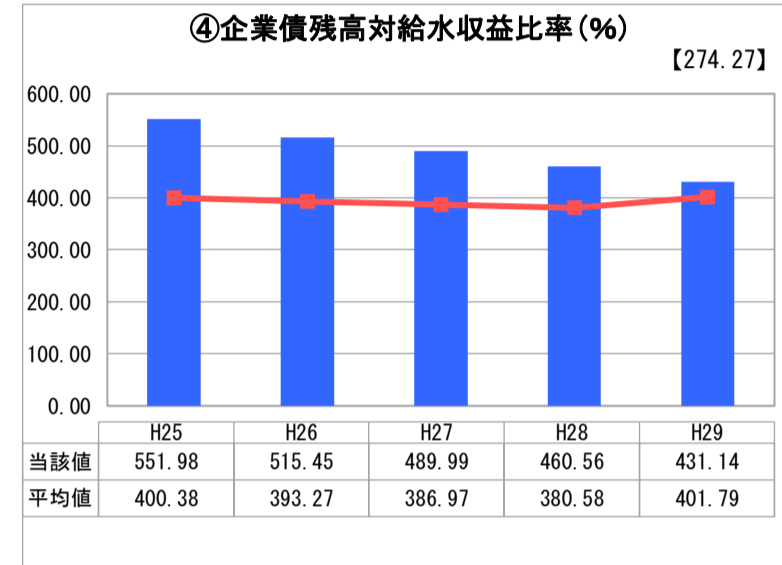
「経常損益」



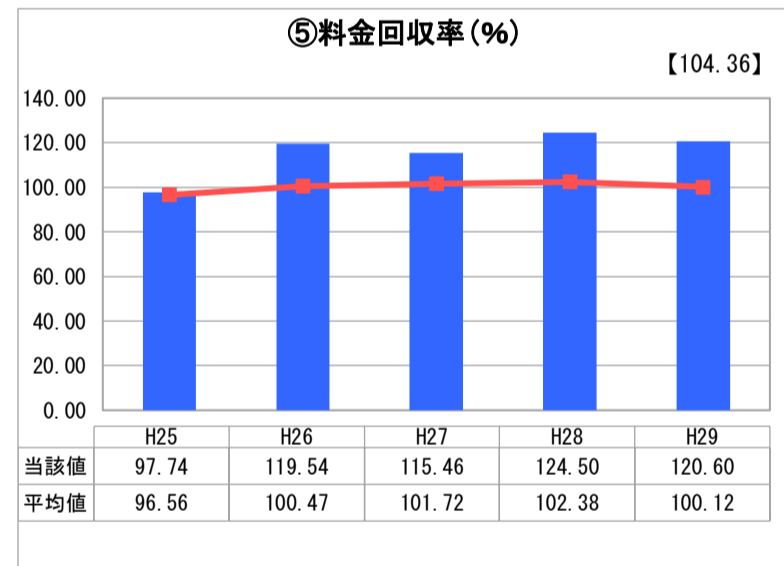
「累積欠損」



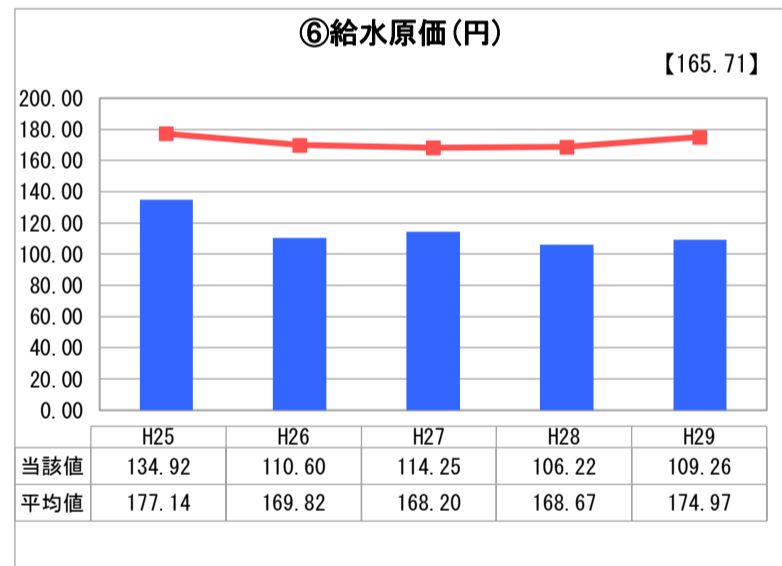
「支払能力」



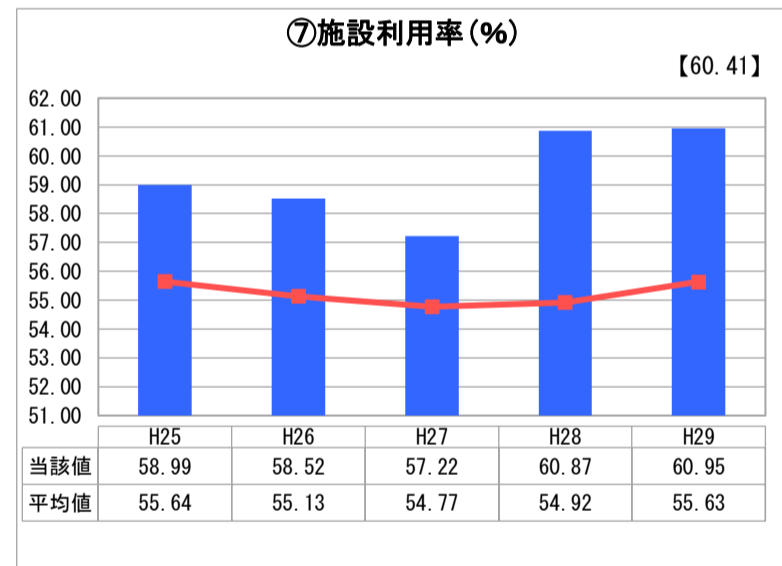
「債務残高」



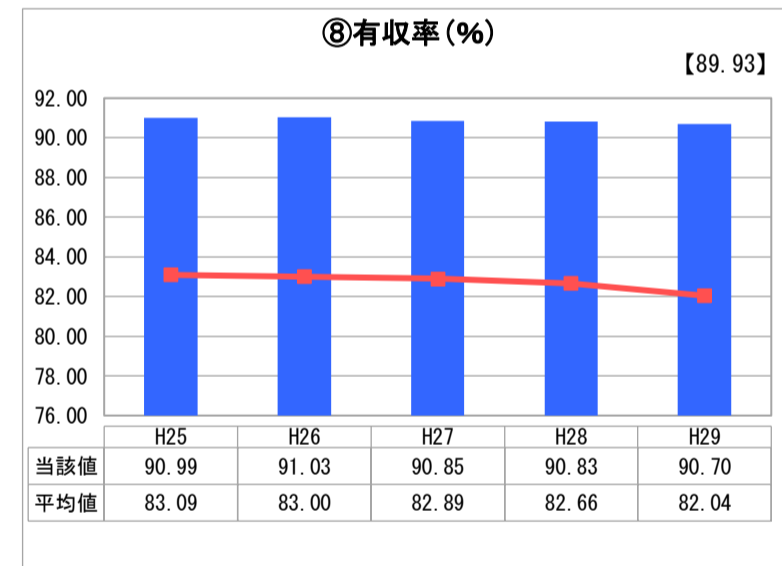
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

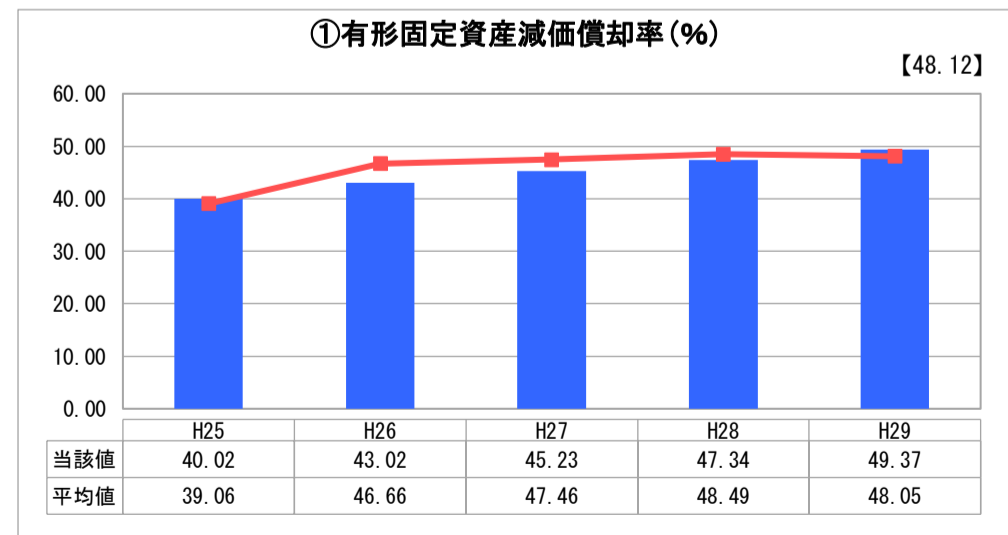


「施設の効率性」

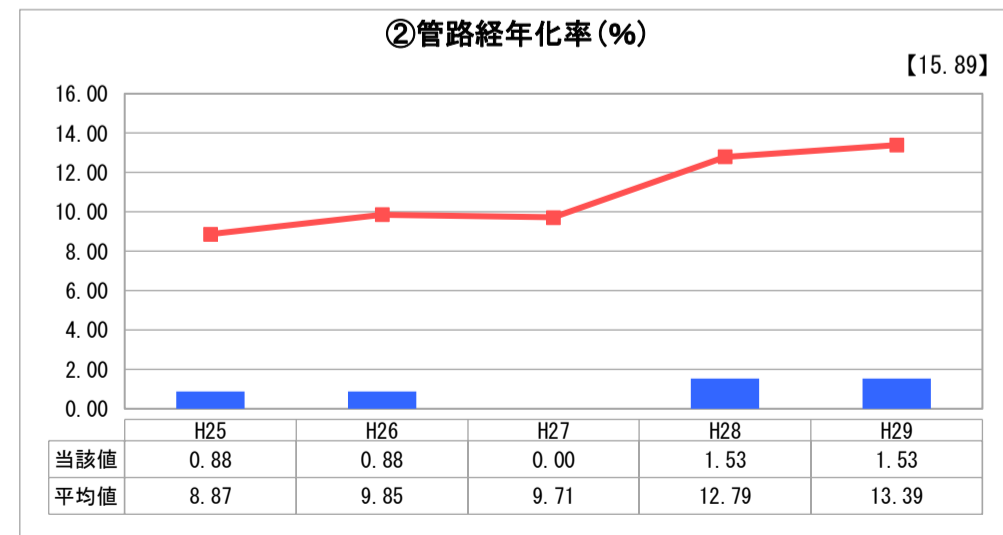


「供給した配水量の効率性」

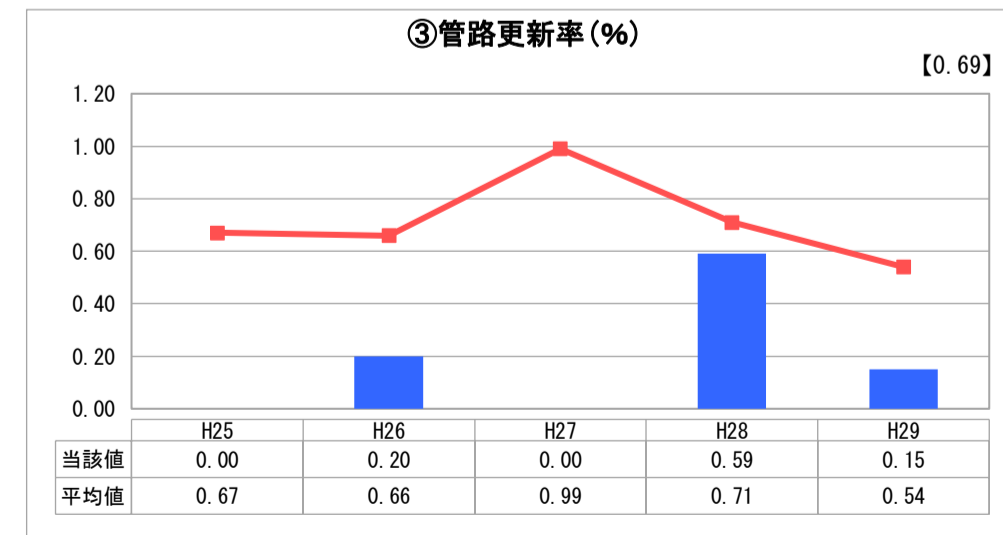
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率：類似団体の平均を上回っており、健全な状態であるが、今後も経費削減を進めるなど経営の健全化に努める。
- ② 累積欠損金比率：累積欠損金が発生しておらず、健全な状態である。
- ③ 流動比率：100%は超えているが類似団体と比べると低い状況にあり、抜本的な対策が必要と考える。
- ④ 企業債残高対給水収益比率：年々減少傾向にあるが、将来にわたり施設や管路の更新等において企業債の発行が予想されることから、水道料金の見直し等も検討する必要がある。
- ⑤ 料金回収率：100%を超えているものの、給水収益の減少や将来の施設等の更新による企業債発行に伴う償還額の増加が予想され、料金改定を検討する必要があると考える。
- ⑥ 給水原価：類似団体と比較すると低い状態であり、今後も原価が低くなるよう努めていきたい。
- ⑦ 施設利用率：類似団体より高い状況であるが、負荷率が近年60%を超える程度あることから、適切な施設規模を総合的に検討する必要がある。
- ⑧ 有収率：90%を超えており、1%でも高くなるよう検針時や施設巡回時に注意深く確認し、漏水による配水量を抑えたい。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率：約50%の水準にあり、計画的な施設や管路の更新計画が必要である。更新にあたっては、費用が平準化できるよう将来的に大きな負荷のかからないよう計画的に進めていく必要がある。
- ② 管路経年化率：下水道事業の工事に伴い水道管の布設替工事を行ってきた。このことにより、比較的新しい管が布設されている。今後も、計画的に更新を行ってきたい。
- ③ 管路更新率：類似団体と比較すると低い状況にある。現在策定中の水道ビジョン見直し計画を基に、効率的な更新に努める。

### 全体総括

現状、経営状態については、概ね健全であると言えるが、人口減少や節水型機器等の普及や節水意識の向上により、給水収益は年々減少することが予想される。これに伴い、経常収支の黒字が次第に減少することも予想される。

一方で、老朽化した施設や管路の更新を計画的に進めていく上で、安定した財源の確保が必要となり、健全な経営を維持するためには、将来、料金の改定を検討する必要がある。

今後も、安心・安定・持続を約束するおぼましの水道ををコンセプトにした「小浜市水道ビジョン」を基本としながら、計画の進捗状況の把握や現状の経営分析等を行い、健全な事業経営に取り組みたい。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。